



# 第8回やまぐち高校生県議会 に参加してきました！！

岩国・柳井地域版

R4.11.1 開催



## 高校生県議会って？

次代を担う県内高校生に県議会の役割や県行政への理解と関心と高めてもらうため、平成27年度から実施されている模擬議会

## 高校生県議会 次第

- 議長開会宣言
- 知事あいさつ
- 高校生議員の自己紹介
- 高校生議員からの質問及び執行部答弁
- 高校生県議会からの意見書の提出・採決
- 高校生議員代表まとめあいさつ
- 議長閉会あいさつ

本会議場で挨拶をしました。



### 【岩国・柳井地域の高校生議員の皆さん】

(周防大島高等学校)吉野晴香・高橋侑奈、(岩国工業高等学校)井上純・田中雄大・西村俊輔・森下春花・山本和真、(柳井商工高等学校)岡村峻青・河内美咲、(高水高等学校)尾崎純哉・三澤彩乃・安田真央 ※敬称略

【問】今後さらに男性の育児休業取得率を上げていくための具体策と出産育児のための意識を変革するための対策について質問する。

【答】私も子を持つ親として、男性が家事・育児に参加することが重要だと考えており、自ら妊婦体験した動画や夢の中で夫が妻と入れ替わり、夫が共に家事を行う重要性を実感する動画等、男性の協力の必要性を発信している。

また、育児・介護休業法が改正されたことから、県としても男性の育児取得率が上昇するように、企業の取組を支援している。



質問に立つ  
吉野議員

吉野議員（周防大島高）と尾崎議員（高水高）が、岩国・柳井地域を代表して質問をしました！

【問】若い世代に歴史ある観光資源に興味を持ってもらうためには、SNSなどで若い世代の視点で魅力を発信することが必要だと思いが、そのような取組について、具体的にどのようことを考えているか伺う。

【答】県では、県内在住の二十代の若者を本県観光の魅力を伝えるライターとして起用し、若い世代の視点での旅行記事をウェブサイトに掲載するとともに、SNSを活用して、若い女性目線による本県の様々な観光情報を積極的に発信している。



質問に立つ  
尾崎議員

ご提案のアイデアも参考とし、今後とも、若い世代の視点をしっかりと踏まえながら、積極的かつ効果的な情報発信に取り組みます。



# 質問と答弁 (全文)

## <質問：吉野議員（周防大島高）>

私からは、福祉と人口減少対策についてお尋ねします。

本県の高齢化率は令和3年度で35.0%と、全国平均よりも6.1ポイント高く、全国第3位の高齢化率となっており、他県に先行して高齢化が進んでいます。

また、年少人口や生産年齢人口の減少が大きいことから、2040年には高齢化率が38.6%となり、今後一層の高齢化が進むことが予測されています。中でも独り暮らし高齢者や認知症高齢者の増加が懸念されています。

そのような中であって、私の住む周防大島町の高齢化率は、令和3年55.3%と、全国及び山口県を大きく上回っています。

しかし、私は高齢化そのものが問題ではないと考えます。私は今、周防大島高校地域創生科で福祉を学んでいて、授業の中で何度か介護施設実習を行いました。お年寄りと触れ合う中でふと考えました。高齢化が進んで問題だと聞いて、お年寄りはどのような気持ちになるだろうと。私であれば、みんなに迷惑をかけているようで心苦しくなるでしょう。

問題はお年寄りの割合が増えることではありません。年齢を重ねても、その人らしい豊かな暮らしが送れるようになるための社会の支えが不足しているということが問題なのではないでしょうか。

そこで、1つ目の質問です。お年寄りが安心して暮らすためには介護人材の充足は不可欠です。一方で介護を必要とする人やその家族を支える介護従事者の労働環境の課題は多く、介護人材の不足が大きな社会問題となっており、加えて、求められる介護の内容も年々多様化・高度化し、それに応えられる人材の養成が急務となっています。介護人材の不足数は2035年にはおよそ3,300人に上ります。こうした状況を打開するために、県はどのような対策をお考えでしょうか。次に、人口減少対策についてです。

令和元年の山口県の育児休業取得率は、女性が98.5%、男性が10.9%となっており、全国と比較するとやや高い水準ですが、男性の取得率が非常に低い状況です。その背景には、育児休業を取得する際の高いハードルが解消されていないことが考えられます。周囲の人に話を聞くと、出世に影響が出るのではないかとといった心配や、育児休業を取得することによって所得が減ることへの不安、業務のしわ寄せが同僚に回ってしまい周囲に迷惑をかけるといった声が上がりました。

また、自分の家庭の理想は夫が外で働き妻が家を守ることだといったアンケートに対し、賛成の割合が49.2%と固定的役割分担意識が強いという調査結果があります。

そこで、2つ目の質問です。山口県では村岡知事自らイクボス宣言を行い、男性の育児参加を率先し、安心して出産・育児ができる環境づくりを支援しておられます。そうした活動に加えて、今後さらに男性の育児休業取得率を上げていくための具体策と、県民の出産や育児に対する意識を変革するためにどのような対策をお考えでしょうか。

以上の2点について質問させていただきます。

## <答弁>

### ○知事

周防大島高等学校、吉野議員の御質問のうち、私からは人口減少対策についてのお尋ねにお答えします。

少子高齢化と人口減少が進む本県においては、県民誰もがその個性と能力を十分に発揮し、男女が共に生き生きと活躍できる社会を実現することが重要です。

このため私は、男女が共に仕事と子育ての両立を実現できるよう、出産・子育てに参加する意識改革と出産・子育てしやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

私も子を持つ親として、男性が家事や育児に参加することが重要だと考えております。私自身が妊婦体験をした動画で

すとか、夢の中で夫が妻と入れ替わって、その夫が夫婦が共に家事を行う重要性を身を持って実感する動画等によって、男性の家事・育児への協力の必要性の発信を行っています。

また、夫婦で協力して子育てに取り組むという意識の醸成のために、子育て中の父親の育児体験談を聞けるセミナー等の開催ですとか、子育てに役立つ情報を盛り込んだ「お父さんの育児手帳」、これも妊娠された御家庭全てに配付をする。そうした取組も行っているところです。

そして次に、出産・子育てしやすい職場環境づくりに向けでは、私自ら率先してイクボス宣言を行いました。子育て応援企業の登録の拡大やイクボス表彰などを行って、子育て応援の機運が高まるように取り組んでいるところです。

こうした中で、育児・介護休業法が改正をされ、男性が柔軟に育休を取得できるようになりました。こうしたことから、県としても男性の育休取得率が上昇するように、企業の取組を支援しているところです。

具体的には、山口しごとセンターに配置しているアドバイザーや専門家が企業訪問を行って、デジタル技術を活用した業務改善やテレワークの推進などの働き方改革を進めています。

こうした取組により職場環境が改善され、男性の育児休業の取得の増加や社員の離職率の低下にもつながる事例が出てきていることから、シンポジウムなどを開催して、こうした成功事例のPRや他の企業への普及を図ってまいります。

そしてまた、多くの企業で男性の育児休業の取得が進むように、企業に支給する奨励金の予算額を昨年度の2倍以上に拡大をしたところです。

私は、人口減少の克服に向けて、仕事と子育ての両立の実現に取り組んでまいりますので、高校生の皆さんもそれぞれの立場で、人口減少が続く本県の課題やその解決策について考えてみてください。

### ○健康福祉部長

介護人材の確保・養成についてのお尋ねにお答えします。

お年寄りが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、質の高い介護サービスを安定的に提供していくことが大変重要です。

こうした中、吉野議員お示しのとおり、高齢化の進行等により介護人材の不足が見込まれていることから、県ではサービス提供の要となる人材の確保・養成を図るため、働きやすい職場環境の整備や職員の資質の向上等に取り組んでいます。

具体的には、まず職場環境の整備に向けては、事業者の主体的な取組を促すため、施設長を対象とした研修を実施するほか、労働環境の改善や人材育成に積極的に取り組む事業所を、県が働きやすい介護職場として認証しており、引き続きその拡大に努めてまいります。

また、職員の資質向上に向けては、医療的ケア等の専門的な知識や技術を習得する研修や、経験年数等に応じてスキルアップできる研修を実施するなど、一人一人の状態に応じた適切な介護のできる人材の養成に取り組んでいます。

さらに、小中学生や高校生等を対象とした介護職場の体験や介護職員による学校での出前講座等を実施し、介護職のやりがいや魅力を知っていただくことで、将来の担い手の育成につなげています。

こうした中、吉野議員のように高い志を持って福祉を学ばれている若者の存在を、非常に頼もしく感じています。県としましては、お年寄りがその人らしく安心して生き生きと暮らせるよう、介護サービスのさらなる充実に取り組んでまいりますので、高校生の皆さんは介護職を将来の選択肢の一つとして考えていただけることを期待しています。



# 質問と答弁 (全文)

## ＜質問：尾崎議員（高水高）＞

私からは、観光資源をさらに活用する具体的な取組に関して、2点ほど質問させていただきます。

まず、SNSでの観光地の情報発信についてです。

山口県には山口県には、萩反射炉や松下村塾など5か所の世界遺産があります。しかし、特に若い世代に世界遺産があることを知らない人が多くいると思います。その魅力は十分に発信されているのか疑問に思います。そこで、SNSの運営を高校生とともに行うことを考えました。高校生の意見を取り入れながら発信することで、若い世代により親しみやすく、効果的なアプローチができると思います。

また、一つの具体的な取組としては、県内の高校や大学などで山口県を活性化させるイベントや企画のコンテストを行うことを考えました。優秀な案は実際に県の取組の一つとして採用するとよいと思います。県の活性化に高校生や大学生が携わることで、県民としての意識が芽生え、ふるさとである山口県に愛着が湧きます。さらに県の活性化について興味を持ち、積極的に取組に参加する若い世代が増えることで、次世代を担う人材の育成にも役立ちます。

そこで、1つ目の質問をさせていただきます。特に若い世代が歴史ある観光資源に興味を持ってもらうためには、実際にSNSなどで若い世代の視点で魅力を発信することが必要だと思いますが、そのような取組について、具体的にはどのようなことをお考えでしょうか。

次に、観光地への交通アクセスについてです。

例えば、岩国錦帯橋への交通アクセスです。現在、錦帯橋へ行くためには様々な交通手段がありますが、ここではバスを例に挙げたいと思います。岩国市の観光ホームページによると、岩国駅と錦帯橋を結ぶバスは10から15分毎に運行されています。しかし、錦帯橋へ行くバスは途中経由地が多く、時間がかかります。そこで錦帯橋だけに限らず、特定の観光地にシャトルバスや循環バスを運行するとよいと考えます。乗換えが少ないほうが観光客の負担も少なくなり、気軽に訪れることができます。

また、空港から観光地への乗合タクシーなども、観光客にとっては交通手段が増え、便利になると思います。

そこで、2つ目の質問をさせていただきます。観光地への交通アクセスの利便性を高めるために、シャトルバスや循環バスの開通、乗合タクシーの運行などが挙げられますが、このような交通アクセスの充実について、今後、どのような取組をお考えでしょうか。

以上、2点に関して質問させていただきます。

## ＜答弁＞

### ○知事

高水高等学校、尾崎議員の御質問のうち、私からは、若い世代の視点での魅力発信についてのお尋ねにお答えします。

本県には、お示しの萩市の世界遺産など、明治維新胎動の地としての多くの歴史的文化的遺産をはじめ、豊かな自然景観や心安らぐ良質な温泉、さらには、四季折々の多彩なグルメなど、全国に誇れる魅力的な観光資源にあふれています。

私は、こうした本県の魅力的な観光資源をもっと多くの若者に知っていただきたいと考えており、そのためには、

若い世代の視点を踏まえた効果的な情報発信が大変重要です。このため、県では、県内在住の20代の若者を本県観光の魅力伝えるライターとして起用し、若い世代の視点での旅行記事をウェブサイトに掲載するとともに、SNSを活用し、若い女性の目線による本県の様々な観光情報を積極的に発信しているところです。また、山口県立大学の学生をSLやまぐち号のSLアテンダントに任命し、列車内でのおもてなしや沿線の観光案内を行うとともに、学生ならではの視点で観光パンフレットを作成するなど、若い世代と連携した取組を実施しているところです。

さらに、今年度新たに旅行客の性別や年齢層ごとに異なるSNS広告を発信する取組を実施しており、若者に対しては、その趣味や嗜好などに即して、本県の旬な観光情報を効果的に発信することとしています。加えて、県では、毎年大学生のインターンシップを受け入れており、その中で若い世代に親しみやすく、関心の高まるPR手法等についての意見交換を行い、効果的な本県の魅力発信につなげているところです。

私は、御提案のアイデアも参考とし、今後とも若い世代の視点をしっかりと踏まえながら、積極的かつ効果的な情報発信に取り組んでまいります。

尾崎議員をはじめ、高校生の皆さんにも、若い豊かな感性を生かして、SNSなどでどんどんと山口県の魅力を発信をしていただくようお願いいたします。

### ○観光スポーツ文化部長

観光地への交通アクセスについてのお尋ねにお答えします。

多くの魅力的な観光地を有する本県において、こうした観光地へのバスや乗合タクシー等による交通アクセスの確保、充実を図ることは、観光客のみならず、地域住民の利便性を高める上でも大変重要です。このため、現在、世界遺産を有する萩市や絶景等の観光地を有する長門市においては、高速バスやジャンボタクシーによる新山口駅からの直行便が運行されるなど、各市町による観光地への交通アクセスの充実に向けた取組が行われています。また、県としても、観光客の広域での周遊促進を図るため、湯田温泉から角島大橋や元乃隅神社などを巡る観光周遊バスの運行や、JRとの連携によるクルージングバスの実証運行を支援しているところです。

さらに、今年度、長門市や美祢市と連携し、山口宇部空港と長門湯本温泉や道の駅おふく等を直結する乗合タクシーの実証運行を行うなど、乗換えが不要で利便性の高い、新たなルート開設にも取り組んでいます。

加えて、山口宇部空港と下関駅を結ぶ空港連絡バスが廃止されたことに伴い、これに代わる乗合タクシーの運行を支援しているところであり、空港から唐戸市場や城下町長府などへの観光客の交通アクセスを維持・確保しているところです。

県としては、今後とも観光客の一層の利便性向上に向け、県内観光地への交通アクセスの充実積極的に取り組んでまいります。

## 第8回やまぐち高校生県議会で採択された意見書

### 交通事故減少に向けた自転車道整備を求める意見書

私たち高校生が頻りに利用する移動手段として自転車がありますが、自転車と車両、歩行者の接触事故が県内でも多数発生しています。県内の車道を通行する際、自転車と車両の距離が近く、危険な場所は少なくありません。また、歩行者と自転車が同じ一つの歩道を利用していることが原因での接触事故が多いことが挙げられます。特に、学校周辺の道路が狭い道が多いことや、交通量の多い道路に面している学校が多く通学時には危険な場面が度々見られます。

そこで、これらの問題を解決するために私たちは、「自転車道の整備」を提案いたします。自転車が安全に通行できる道路整備を進めることで、歩行者や自動車の安全確保にもつながります。特に、学校周辺や交通量の多い道路において、歩行者、自転車、自動車それぞれが安全に通行できる道路の整備を行うことで、老若男女問わず安心安全に住みやすく、生活しやすい街になると考えられます。

また、近年、地球温暖化の進行する中で、二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として自転車の注目度は高まっています。自転車の利用を促進していくためにも、歩行者と自転車が分離された通行空間の整備に取り組む必要があります。

そのほかにも、公共交通機関が充実していない地域を多く抱える本県では、自転車を移動手段として選択する方は多くなっています。さらに、高齢化が進む我が県で、

路線バスの廃止等、地域公共交通サービスをめぐる環境が厳しさを増す一方、高齢者の運転免許証返納者数が年々増加し、高齢者で自転車を移動手段として利用する方は増加傾向になると私たちは考えます。県内の交通事故による死亡者、負傷者共に高齢者が多く、一層の注意が必要なものとなります。

これから自転車を利用する人が、安全にルールを守って利用できるように、そして、普段から通勤・通学や移動の手段として自転車を使用する方が、より安全で便利な二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として利用できるよう、自転車道の整備を求めます。

令和4年11月1日

第8回やまぐち高校生県議会 議員一同

(代表提案者：野田学園高等学校 村岡 将多君)



提案理由を説明する村岡議員

## 高校議員代表まとめあいさつ

本日は、第8回やまぐち高校生県議会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

事前学習会や本日の議場での質問など、普段の学校生活では経験できない多くの学びを得ることができました。

8月に開催された事前学習会の中で、山口県の最重要課題は人口減少と少子高齢化であるというお話を伺いました。山口県の人口は昭和61年以降減少が続いています。

国においても、平成20年をピークに人口は減少しており、令和35年には、人口が1億人を割り込むと推計されています。こうした中、山口県では、やまぐち維新プランで、妊娠・出産、子育てと続く切れ目のない支援を行っておられます。それもあってか、令和3年の山口県の合計特殊出生率は1.49で、全国平均の1.30を上回っています。一方、YY!ターン支援など、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた山口県への移住促進に取り組んだり、やまぐち維新プランにより働きやすい環境を整えているにも関わらず、国立社会保障・人口問題研究所による第8回人口移動調査では、山口県のUターン率は全国平均の43.7%を下回る40.0%でした。

山口県が住みやすく働きやすい、そして、子育てしやすい地域であるという認識が県内外に浸透していないのか、現状は転出超過が続いています。

私たちは情報発信にたけた世代です。私たち高校生が山口県の魅力をしっかり学び、体験し、実感することで、卒業後にそれぞれの場所で山口県の持つ多彩な魅力を広く伝えられればと思います。

今年4月に民法が改正され、成年年齢が18歳に引き下げられました。私たちは在学中に成年を迎え、大人として社会に出ていくことになります。

昨年の衆議院議員選挙では、山口県の投票率が最下位であったとのニュースを見ました。中でも20歳以下の投票率は著しく低く、私たち若者が政治を自分ごととして捉え、選挙に積極的に参加する必要があると感じました。私も一人の社会人として、必ず選挙に参加します。

結びに、山口県民の一員として持続可能な未来社会の創出に貢献し、「活みなぎる山口県」の実現のため、積極的に尽力し続けることを宣言し、決意表明とさせていただきます。

高校生議員代表 大津緑洋高等学校日置校舎

鴨川依乃梨さん



決意表明する鴨川議員